

## とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	西東京市西原町 4-5-96
園名	西東京市立けやき保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然～体験と体感～(水や砂・泥の感触、自然との触れ合いの中での創造と発見)

<テーマの設定理由>

- ・豊かな自然に囲まれた園の特性を活かし、自然に触れることで感触や感覚・五感を刺激し好奇心を広げていく
- ・日々過ごす生活の中にある身近なものを使って体験と発見・想像を広げる

### 2. 活動スケジュール

- ・園庭遊びや散歩を通して自然に触れる
- ・土や砂に自由に触れ、様々な感触を体験する(野菜栽培なども含む)
- ・砂あそびやどろんこあそびなど様々な活動を経験する
- ・砂だんご、泥だんごなど質の違いを知り子どもたちで話し合いながら色々試行錯誤する経験をする
- ・育てた野菜を収穫して食べる

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

\*素材・道具

- ・砂、土、水、その他自然物に触れながら遊べるコーナーの設置

\*環境設定

- ・子どもたちが、土の感触の違いに気付き色々な場所で活動できるようにした長時間集中する事が予想されるので、活動する場所に日よけを設置した
- ・子どもたちが、泥だんごづくりを継続して楽しめるように、作り途中の泥だんごを保管できるよう個々に置く場所の確保をした

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- \* 園庭遊びや散歩を通して自然に触れ季節の移り変わりを知る
- \* 砂と土の違いに気付く  
泥だんごづくりにはどこの土が適しているか、実際に作ってみることで、気づきがあり、互いに気づいたことを、子ども同士で共有する
- \* 水分や白砂を足すことで変化をすること、強度が増すことに気付く  
泥だんごが割れないようにするためにどうしたらいいかを子どもたち自身が考え実践してみる、その中で、どこの土が適しているか、どのやり方が割れにくいのか、実践していく中で子ども達に多数の気づきがある

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 砂場の砂でおだんご作りを幼児(主に 5 歳児)が始める。子どもの手で作るおだんごは壊れやすく「なんで壊れてしまうんだろう。」などの疑問が子どもたちから出る。砂、土、水、その他自然物に触れながら遊べるコーナーで「土」を使っておだんごを作ってみると壊れにくいおだんごができ、子どもたちの興味が高まっていった。そこから砂場用のふるいや道具を使うことを思いついたり、水分を含ませると土が握りやすく固くなることに気づいたり、子どもたちで様々な試行錯誤を繰り返し、日に日に、自分たちの思い描く泥だんごに近づき更に熱中して活動に取り組む姿に繋がっていた。
- ・ 子どもから、「続きをとっておきたい。」「明日もまたやりたい。」との声に、担任が、一人ずつに、泥だんごが置ける容器を用意し、翌日以降も子どもたちが期待をもち楽しめる環境を作ってきた。
- ・ 5 歳児が、取り組んでいる様子を見て、4 歳児がのぞきに來る姿が多く見られていた。

##### 【作り方は様々。使う砂もみんな違う】



【どうやったら割れない泥団子になるのか試してみる。また明日もやりたい。】



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 5歳児となると、子どもたちが自分で体験した情報を、友だちに伝え合い共有する姿が見られる
- ・ 「割れない泥だんごを作りたい」との共通の思いから、子どもたちからの発見(白砂をかけてみる、土をふるいでふるって使ってみる、泥からおだんごを作ってみる、砂から作り水分を足していく等)が多くあった
- ・ 色々な所の砂、土に実際に触れてみることで、子ども達自身が様々な砂、土の感触を体験することができた
- ・ 子どもたちからの発信を保育者が受け止め、予測される行動を推測し、環境の設定等の準備をしていく事が重要になる
- ・ 5歳児中心で進んできた活動であるが、4歳児が興味を持ち覗きにきた時に、どのような関わりをしたら参加してみようと思えたのか、一緒に取り組むことができたのか。今後の課題になっていくと思われる。